

令和3年度 霞ヶ浦学講座実践編「霞ヶ浦を湖上から見てみよう！」実施報告案

実施日時：令和3年7月24日（土）10:00-12:00

集合場所：ラクスマリーナ 参加者数：21名

概要

1) 「霞ヶ浦湖上体験スクール」に参加し、往路では、スタッフの方々から霞ヶ浦の概要について説明を受けました。

【主な話の内容】

霞ヶ浦は西浦、北浦、常陸利根川からなります。面積220平方km、平均水深は4m、最大水深も7mしかなく、浅くて広い湖になります。成り立ちから見ると海跡湖になります。

霞ヶ浦は、淡水で、富栄養湖になります。昭和40年代半ばくらいまでは各地に遊泳場があり、泳ぐことができました。

流域面積は、茨城県の面積の3分の1、流域の人口も茨城県の人口の3分の1（約96万人）もの人口があります。また、霞ヶ浦の面積は広いため滞留日数は約200日と長いという特徴があります。

私たちは霞ヶ浦から多くの恵みを受けています。霞ヶ浦の水は水道用水、工業用水、農業用水に利用されています。漁業やレジャーの場にもなっています。

また、私たちは浄水場で浄化された水（水道水）を使用し、生活排水は浄化センターなどできれいになります。浄化センターで処理された水は、また霞ヶ浦に戻ってきます。霞ヶ浦の水は繰り返し利用されています。



2) 停船後、3グループに分かれ、以下の3つについて学習を行いました。

●透明度測定・プランクトン採取



透明度板（セッキー板）（直径30cm）の説明を受けます。



透明度測定中



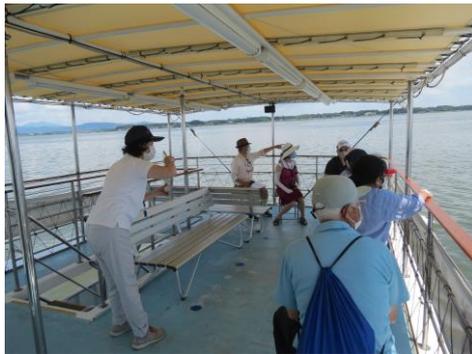
プランクトンの採取

- プランクトン観察 モニターで霞ヶ浦に生息するプランクトンの説明を受けました。



- 霞ヶ浦湖岸の観察

遠方に見えるテキサスインスツルメンツ美浦工場、霞ヶ浦用水管理所、掛馬自動観測所などの説明を受けました。



- 3) 帰路 自由に湖上からの風景を楽しみました。

最後に霞ヶ浦のためにできること（「家でできるよごれをへらす工夫」について）の説明を受けました。

※今回は航路の関係で、往路帰路とも掛馬自動観測所（水質、気象を観測する無人観測所）のそばを通ることができました。

（文責 小川）

